

○ 松 尾 裕 幸

(30分)

【一括方式】

1 カジノを含む統合型リゾート施設（IR）について

- IR実施法案を含む、国の動向について
- 長崎県におけるIR導入に向けた長崎県・佐世保市IR推進協議会の取り組みについて
- ギャンブル等依存症対策強化について

2 動物愛護センターについて

- 動物愛護センター建設に係る経過について
- 動物愛護センターの必要性について
- 今後のスケジュールについて

3 映画「坂道のアポロン」について

- 佐世保市内で「ロケ」があった「坂道のアポロン」が3月10日（土）に全国公開される。その風景を訪ね歩く「聖地巡礼者」等への対応について

○ 浦 日 出 男

(25分)

【一括方式】

1 自治体消防の現状と課題について

- 自治体消防の基本的な考え方について
- 消防組織のガバナンスについて

2 教育行政について

- 学校2学期制について

3 バス事業再編について

- 住民説明会の状況について
- 子会社の収支予測と再編後の体制について
- 公共交通再編実施計画の計画期間と交通局営業所敷地の利活用について

○ 北 野 正 徳 (15分)

【一問一答方式 (1回目から)】

1 林業行政と森林組合合併について問う

「行政にできること」については限界がある。一方、民間の活動を助長する行政の役割については、可能性が大きく、その活動への期待は大きい。林業行政は、森林組合と一体的に進めることで効率性は高まり、また、森林組合経営の安定強化は地域森林資源の多面的活用のかなめである。森林組合合併という民力増強について行政が果たすべき役割があるのではないかについて、問うものである。

○ 宮 城 憲 彰 (30分)

【一括方式】

1 佐世保市地域経済の活性化と産業振興の取り組みについて

日本経済は戦後混乱期から復興期、高度成長期、安定成長期、経済変革期の現在に至っている。本市の経済動向をみると、戦後復興期の昭和25年朝鮮戦争が勃発し、市もその特需の恩恵を受けた。

その後、高度成長期の昭和29年から36年にかけて神武景気、岩戸景気と言われる時代が続き、昭和35年には池田勇人首相による所得倍増計画が打ち出された。昭和39年東京オリンピック開催、いざなぎ景気の中、昭和45年大阪万博が開かれ、昭和47年田中角栄首相提唱の日本列島改造論が脚光を浴び、翌昭和48年オイルショック、その後、安定成長期に入りバブル景気時代が到来、平成3年バブル景気崩壊、平成4年以降経済変革期を迎え、平成13年から20年までいざなみ景気、そして平成24年から現在までアベノミクス景気と称される景気が戦後2番目の長さの記録として続いている。戦後約73年経過し、本市の経済も浮き沈みを繰り返してきたが、経済動向の経緯、推移について統計上の数値に基づき佐世保経済の実態を総括的にどう分析しているかお伺いする。

佐世保の経済動向を見ると、産業構造が非常に脆弱のように思う。今後の課題として人口減少の進行、少子高齢社会の進行などを考えるとき、経済の活性化、産業の戦略的育成、地場中小企業の育成は急務である。次期総合計画の策定が進む中、まち・ひと・しごと創生総合戦略、連携中枢都市圏構想の推進が重要な課題として2年延長され、平成32年度より実施される。その中で経済の活性化、産業振興は最重要課題であり、いかにして産業基盤の強化を図っていくか、中核市としていかにして20万人の人口を維持していくか、若者の地元定着をどう図っていくかが問われる。そのための手法として各種産業の振興にどう取り組んでいくかお伺いする。

○ 昭和20年から現在までの佐世保市の経済動向について

○ 今後の活性化のカギと課題

- ・ 今後、本市の発展、まちづくりのためには経済の活性化、各種産業の振興・戦略的育成が不可欠。足腰の強い産業の柱を確立し、どんな不況にも耐え得る産業構造の構築が必要
- ・ 観光産業のさらなる振興
- ・ 第一次産業、防衛関連産業、造船関連産業、海洋関連産業の振興及び国の

出先・研究所の誘致

- ・ 地元製造業の強化
- 産業支援センターの充実・強化
 - ・ 創業支援と既存中小企業の支援について
- 企業誘致の推進と受け皿としての団地整備
- 産業振興を図る推進体制の整備について
 - ・ 産業振興プランの作成が急務
 - ・ 官民連携、商工会議所との連携、産業支援センターとの連携